

算命学中庸

【初年】 58 回目

58 回目の授業はこのページからです。

授業科目 【天中殺論】 (4)

【初年】 58 回目 【天中殺論 (4)】 「生月中殺」 01

宿命中殺をもつ人は、〔此の世に生まれたときからすでに〕自分の宿命内に中殺の部分があるわけです。

「年干支」が中殺されていれば「生年中殺」です。

「月干支」が中殺されていれば「生月中殺」です。

あるいは、宿命全部が中殺されていれば「宿命三中殺」になります。宿命中殺はほかにもいくつか種類があります。

それら宿命中殺の名称はすでにご紹介しました。

🔍 【初年】 57 回目 【天中殺論 (3)】 12 頁に記載してあります。

☞ 57回【天中殺論(3)】20頁からは「生年中殺」の授業でした。
58回目【天中殺論(4)】は「生月中殺」の授業です。

☞ 生月中殺 (せいげつちゅうさつ)

	丁	戊	壬	宿命(1)生月中殺
申	丑	申	寅	
酉	癸	戊	戊	
	辛	壬	丙	
	己	庚	甲	

上記は「壬寅」「戊申」「丁丑」の申酉天中殺であり宿命殺の「生月中殺」をもっています。

生月中殺は(月支)を中殺していますが、月干の「戊土」、そして(申)の二十八元〔蔵干〕も中殺をうけます。

「月干」は子供の場所であり、友人・兄弟の場所という意味合いがありました。

(月支)は家系の場所です。

これらの場所が不自然な状態を起こします。

「月干」は社会の場所、子供の場所、友人・兄弟の場所



(月支)は家系の場所です。そこが中殺されています。

ゆえに家系と縁えんがない、家系との縁が薄いのです。

これらの意味合いが不自然な状態を起こす。

☞ 月支の説明です。

月支は家系の場所です。

家系の場所が不自然・不完全な状態になるということは、小さい頃から（生まれたときから）家系とは縁がないという状況がつけられます。

あるいは、家系と縁が薄いということです。

男性も女性も自分の生まれたところの生地せいち・生家せいかが家系です。その家系と縁が薄いのです。

宿命に「生月中殺」があるということは、生まれながらに、自分が生まれた家系と縁がないわけです。

家系は自分が生まれた実家です。女性が嫁いだ婚家先のことではありません。そして、養子先でもありません。

☞ 宿命中殺で「生年中殺」をもつ人は〔親との縁が薄いから、早く親元を離れたほうがよいのですが、親が不自然な状態（死ぬことも含めて）になっている場合は、親元を離れる必要はないのです。

〔親元を早く離れなさい〕というのは、あくまでも、親が健在であるということが前提です。

「生年中殺」をもつ人は、年干支・親の場所を中殺しています。親を不自然な状態へ追い込みます。不自然・不完全ということでは、親が病気なら不自然です。

親の夫婦仲が悪ければ不自然です。

「生年中殺」の人は、家系とは縁があります。

なぜなら、月干支（家系の場所）を中殺していません。

☞ 宿命に「生月中殺」をもつ人は、家系を中殺していますから、家系と縁がないのです。

生月中殺は家系中殺です。

このことは生月中殺をもつ人の実家の話ですから親が生きていても、死んでいても、生地・生家との縁が薄いのです。そのように考えます。

親がいても、いなくてもです。

生月中殺をもつ人は、基本的に家系の跡継ぎにはなれません。

生月中殺の人は、親が生きていても、死んでいても、
生地・生家と縁が薄い。家系の跡継ぎになれない。

⇒ 家系の跡継ぎを、家業に置き換えて考えます。

〔たとえば〕生月中殺をもつ④さんは、新潟で酒屋を
営む家系に生まれました。

成長した④さんは実家を離れて東京に住みました。
東京に住むのは良いのですが、新潟の実家が酒屋
なので、④さんが東京で酒屋を開店するのであれば、
家業を継いだことになるのです。

宿命に生月中殺のある人は、実家とおなじ仕事はで
きません。という意味も含まれているのです。

⇒ 生月中殺をもつ人は〔跡継ぎになれない〕とい
いましたが、跡継ぎになっている場合もあります。
その場合は、どういう現象が起こるのかといえば、
家系のなかに犠牲者をつくることになります。

〔たとえば〕家業を継ぐと、その家業を潰します。

「家業を継ぐ・継承」という意味は、自分の子供に
家業を引き渡していくことをいいます。

それゆえに「家業を継ぎましたが、潰しました」と
なれば、家業を受け継いだことになりません。

「家業を受け継ぎましたが、受け継いだ本人が死に
ました」これも駄目です。

参考・継ぐ〔絶えないようにあとを続ける〕

参考・跡継ぎ・後継ぎ（あとつぎ）〔家督をつぐこと。あととり〕

参考・家督（かどく）〔相続すべき家の跡目を継ぐべき子〕

家系を継ぐということは、〔先祖の菩提を^{とむら} 弔う役目
を継ぐ、お墓を守ること〕このように^{おも} 想われる人も
おられますが、^{いま} 現在生きている姿が^{しゅ} 主になります。
お墓を守る話しもありますけど、^{かんよう} 肝要なのは生きて
いる姿です。

つまり、宿命に生月中殺をもつ人が、〔実際に家業を
継いで営んでいる〕あるいは〔実家を出ないでその
家に住んでいる〕という現実のほうが大きな意味を
もちます。

参考・菩提を弔（とむら）う〔死者の冥福を祈り、供養する〕

参考・肝要〔非常に大切である〕

⇒ 宿命に「生月中殺」をもつ人は“家系中殺”ですから、家を継がないほうがよいのです。なぜかといえ、生月中殺の人が家系を継ぐと、本人が宿命から外れるために、本人に問題が起こります。

⇒ 「生月中殺」があるから、家系が続かないとは決まっています。家系が続くには条件があります。

また、条件付きで跡取りになれる場合もあります。

このことは高学年になって学ぶことになります。

⇒ 女性が「生月中殺」をもっている場合は……。

「生月中殺」をもつ女性が婿養子をもらうのは駄目です。家を継いだことになります。

こんかさき
婚家先（自分がお嫁に行く家）であれば、長男のところへ嫁いでも構いません。

自分が嫁いだ他家は、自分の実家・家系ではないからです。

生月中殺をもつ本人は、自分の生地・生家との縁が薄いわけですから、他家へ行くのは構わないのです。他家であれば、その家を継ぐ人物と結婚してもよいのです。

☞ 「月干」の話です。

月干は〔社会の場所〕〔子供の場所〕〔友人・兄弟の場所〕です。

「生月中殺」をもつ人は、それらの場所が中殺されて不自然・不完全です。

親が「生月中殺」をもっていれば、月干（子供の場所）を中殺しています。

子供の場所が不自然な状態ですから、子供との縁が薄い人です。

縁の薄い人物を頼ることはできないといたしました。

「生月中殺」をもつ親は、自分の子供を頼ることはできません。

子供を占うときに、生月中殺の人は「子供に縁がない」

このことは要点です。参考・要点〔大切なところ〕

☞ 「生年中殺」をもつ人の場合は、親の場所を中殺していますから、自分が親との縁を薄くしています。自分が親の場所を中殺しています。

生年中殺の人は、親を不自然融合に追い込んでいますから、親を頼ることはできないわけです。

☞ 宿命に「生月中殺」をもつ人は、我が子との縁が薄いのです。

そこで考えられることは、子供が生まれない（生まれにくい）ということも起ります。

子供が絶対に生まれないと言っているわけではありません。

子供が生まれても〔子供に縁が薄い〕ので〔子供が離れて行く〕という意味があります。

それゆえに、生月中殺の人は子供を頼りません。

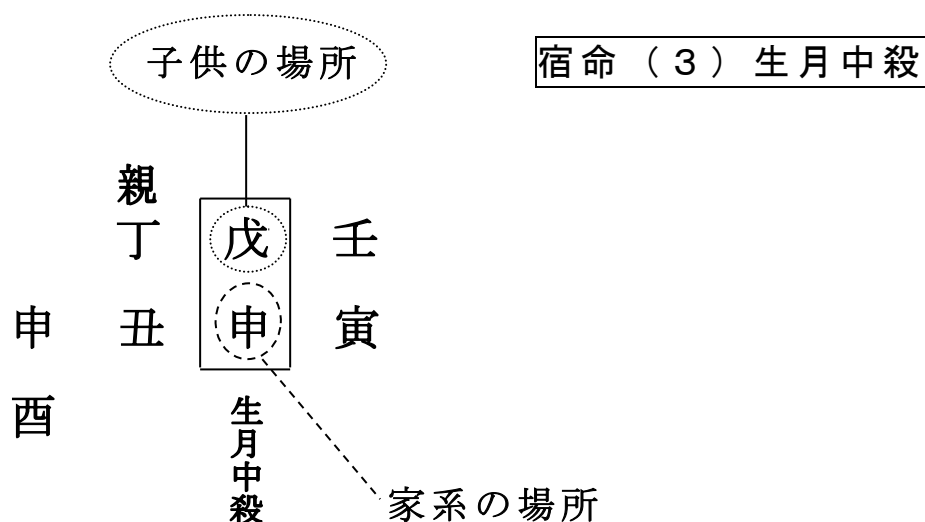
「生月中殺」をもつ人の子供の話で、子供を頼れないという状況はいろいろあります。

- ❖ 子供が生まれない場合。
- ❖ 子供が病弱の場合も。
- ❖ 子供が非行に走るとか、ヤクザにとかの場合。
- ❖ 子供が勉強しないとかで、駄目な子供の場合。

このような状態になる可能性があります。

☞ 子供を占うときに、宿命に生月中殺をもつ人は『子供に縁^{えん}がない』……このことが要点です。

参考・要点 [大切なところ]



日干「丁火」親とすれば、丁火は子供を頼れませんが、子供は親を頼れます。親は子供の場所を中殺していますが、子供は親の場所を中殺していません。

(生年中殺の人は、親を中殺している⇒親を頼れない)

親が子供の場所を中殺していますが、子供が小さいうちは、親は子供の面倒を^み着てもよいのです。

子供と一緒に暮らしても構いません。

しかし、子供が成長して大人になると、親は子供を頼れなくなります。

自分が中殺へ追い込んでいる子供を頼れません。

そうしますと、通常、親が子供を頼る時代というのは、子供が大人になって社会へ出てからです。

「生月中殺」をもつ子供が社会へ出て行きます。

就職した子供が、親に給料を渡すということもあるわけです。(昨今はあまり無いかも知れません)

そうしますと、年代が進むにつれて、親の面倒を見る程度が大きくなるでしょう。

そして、親が高齢になれば、子供に面倒を看てもらおう状況が普通かもしれません。

つまり、自分が中殺している子供を頼るようになるわけです。その状況になると、親のほうが目になります。

なぜかといえ、自分が中殺している子供を頼れないのに頼るからです。

そして、子供に面倒を看てもらっていた親が死んだら、その子供が目になるということが起こります。

それは生月中殺をもつ親が、本来は頼ってはいけない子供を頼ってしまったために、このようなことが起ります。「生月中殺」をもつ親は、子供を中殺して

います。親が子供を中殺している「生月中殺」なのに、親と子供が縁えにしを篤あつくしたために、禍わざわいが起るわけです。

☞ 親が子供を頼れる場合もあります。

親は「生月中殺」をもっています。

生月中殺の親から生まれた子供が成長して、大人になりました。

その親が病気とかであれば、子供を頼れます。

「生月中殺」をもつ親は、子供を頼れません。
子供に頼ろうとしたときに問題が出てきます。
中殺をしている子供が頼れないのに頼るからです。

☞ 「生月中殺」は『子供中殺』の宿命です。

子供が中殺を受けないためには、どのようにしたら良いのかです。

自分の手元から、子供を離します。

子供が中殺を受けるのを防ぐためにです。

遅くとも、子供が社会に出るまでには、親元から離すことが基本になります。

「生月中殺」をもつ親は、子供が大人になるまで、自分のそばに置いておいてもよいのですが、我が子を不自然な状況へ追い込むのが生月中殺です。

親が子供に縁えんがないのです。

中殺現象を起こさないためには、親は子供の世界に入っていないことです。

それが生月中殺をもった親に求められることです。子供に「ああしなさい、こうしなさい」と干渉しないで、子供本人の自発的な意思に任せるという育て方をすることです。

⇒ 「月干」は社会の場です。

男性にとっては、自分の社会の場です。

生月中殺の人は「月干」が不自然になります。それはおもに人間関係が不自然になると考えます。

仕事上の人間関係で苦勞しますが、それは仕方のないことだと考えています。

それゆえに「生月中殺」をもつ人は、対人関係においては無心で付き合えばよいのです。

そして「月干」は仕事の場でもありますから、一生おなじ仕事をやり通すということは、とても難しくなります。途中で転職することが多いのです。

一つの会社に居続けるということは、ほとんど無いといわれています。ただ、昨今は転職がとても多い時代です。ゆえに、一概いちがいにいけない部分もごさいます。参考・一概〔すべてをおなじにみてひとつにすること〕

おなじ会社に居続けることもあります。その場合は普通とは異なる状況下を必要とします。

〔物足りない〕〔気がめいる〕とか、不満足な状態で勤務するというのであれば別です。

あるいは、会社が現在の^{いま}状態が保てなくなり、大きく方向転換をせざる得ない状況になった場合です。そのような事態のときに「生月中殺」をもつ人物が、リーダーシップを取れば、その事業はつながっていくと考えています。

生月中殺の人は、^{ひとところ}一所に留まれないような宿命ですから、一つの会社にずっと勤務するのなら、会社が転換するような状況にならないと難しいのです。

〔たとえば〕吸収合併でも良いのですが、その代わり、リーダー格に抜擢されないと無理です。その人物が主役にならないと駄目ということなのです。

旧国鉄（日本国有鉄道）から、東日本と西日本へと二分割して、JRへの民営化へと道筋を立てた人物は、宿命内に「生月中殺」をもちます。

そのような場合は事業が存続します。

その会社・組織のレベルがありますから、国鉄から

J R へ転換するほどの大きな転換はないでしょうが、それに近い状況があれば起こり得ます。

その意味では改革者ともいえるでしょう。

改革者としての役割をまっとうできるのか、できないのか、その人物の生き様いさまによります。

参考・生き様 [独自の生き方、それをつらぬき通して生きる姿]

社会は人間関係です。組織もそうですよね。

生月中殺の人は、必ずしも組織に同調しないともいえます。組織からはみ出しやすい人です。

サラリーマン社会は人間関係が重要視されます。

宿命が生月中殺の人は、人間関係がうまくいかないことが、多くなって当たり前でもあるのです。

宿命を中殺をもつ人と、もたない人の世界は異なります。

☞ 「生月中殺」をもつ女性を考えます。

その女性が仕事をもっていれば、組織での人間関係の苦勞は付いてまわります。

生月中殺の女性の場合は、夫が問題を起こしやすいともいえます。参照⇒22頁「月干」は社会の場所の話です。

自分と夫の夫婦仲で、調和を取るのが難しくなります。夫との関係が思うようにいかない（夫が浮気しているとか）ということが起こります。

そうしますと〔生月中殺の女性は結婚運が悪い〕というふうになりますけど、それは相手次第です。

☞ 「生月中殺」をもつ人の結婚相手を考えます。

生月中殺をもつ人は、生月中殺をもつ人と結婚するのが相性です。その結婚であれば、夫婦間の不協和音ふきょうわおんの響きひびは起こりません。

それは〔異常な人〕と〔異常な人〕が結婚するわけですから正常です。中殺には異常という意味があります。

〔自分も異常〕で〔相手も異常〕という結びつきの姿を、ほかから見て異常に映っても、生月中殺同士の夫婦は異常ではなくて、正常なのです。

この相性であれば、社会に対しても、異常現象を出さずに済みます。これは結婚の相性あいしょうなのです。

端的に言えば、宿命中殺をもつ人と、もたない人は世界が異なるのです。そこに齟齬そごが生じます。その意味で、生月中殺をもつ者同士は相性です。おなじく「生年中殺」もっている者同士も相性です。

つぎに、相性の度合いは、ちょっと落ちますけど、「生年中殺」と「生月中殺」の人も相性です。異なる「宿命中殺」をもっている者同士であれば、かなり釣り合あいます。相性は良いと考えます。そのなかでも、一番良いのは、おなじ場所同士ということです。「生年なら生年」「生月なら生月」ゆえに、結婚運が悪いといっても、必ずしも、結婚運が悪い状態になるとは限らないのです。しかし、宿命中殺をもっている人と、もっていない人の結婚は、相性が悪いということになります。

そうしますと、相性の悪い2人が結婚したときは、どうすれば良いのか？……となるわけです。不自然な箇所かしよを認容にんようすればよいのです。宿命中殺をもっている人と、もっていない人の結婚は、異質な世界の結びつきに起因しますので、仕方がないのです。

異質な形はさまざまですが、どこかの箇所^{かしよ}に夫婦の調和を乱す火種があるはずです。

それはご夫婦でわかるはずですから、その部分を認容^{にんよう}するのです。

それが〔できる〕〔できない〕はご夫婦次第です。

参考・箇所〔その火種になるところ〕

参考・認容〔みとめ許すこと〕

参考・家内〔家の内。その家で生活する人たち〕

宿命中殺をもつ者同士の結婚であれば、問題はほとんど出ないでしょう。

とはいっても、それは夫婦のあいだに限られます。

宿命中殺をもつ者同士の結婚は最適です。と書きましたが、夫婦と親子の相性はまったく別です。

親子関係でいえば、もっとも悪い関係になります。宿命中殺をもつ人は〔親縁が薄い〕とか〔子供縁が薄い〕とか言っているわけです。

〔たとえば〕親と子が、おなじ宿命中殺だから……親子の相性が良いという意味にはなりませんよ。

親と子は〔縦〕の関係です。縦線の関係
 夫婦のように〔横並び〕なら問題はないのです。
 夫婦は横並びの関係です。横線の関係
 つまり『夫婦は対等』だと考えています。
 そして、友人も横並びの関係です。

人体図で、第一命星・主星・第三命星は横並びです

宿命（4）生月中殺・人体図

	第四命星（北）	
第一命星（西）	主星（中心）	第三命星（東）
	第二命星（南）	

宿命中殺をもつ者同士の友人関係は、お互いのことがわかり合えるので、その意味で良さがあります。
 友人のなかで、親友的存在となると、相性が大きく影響します。
 しかし、単なる友人であれば、こだわらないほうがよいのです。

友人というのは、不特定多数というところに良さがあります。つまり、気に入る友人がいたり、気に入らない友人がいたりするほうが良いわけです。

しかし、友人関係と異なり、夫婦の場合は1対1ですから、気に入らない相手では困ります。

⇒ 女性が「生月中殺」の場合は夫にも出ます。

社会の場所とは、一般的には「働く場所」です。

男性であれば、そのまま“働く場所”と考えてください。

女性で働いている人は、男性とおなじで「働く場所」という意味で取って結構です。

しかし、一般的に女性は家庭の主婦が多いですね。

それらの女性は、外で働いていないわけです。

外で働いていなくても、夫を^{とお}通しての社会の場であるわけです。

女性が「生月中殺」をもっている、もっていないに関わらず宿命には「月干」があります。

女性にとっても「月干」は男性とおなじく「社会の場所」なのです。

そこで異なるのは、女性が外で働いていない場合は、夫の社会の場所の意味が、妻の社会の場所の意味になります。このことは女性の特徴です。

〔たとえば〕安部総理大臣の妻であれば、阿部総理大臣の妻という「社会の場所」が与えられます。

つまり、安倍総理大臣の妻という地位であり肩書きです。

あるいは、社長婦人、課長婦人という言葉がつかわれますが、夫の役職をつけられて、何々婦人という言い方をしますように、夫の地位そのものが、女性にとっての社会と考えます。

男性に対しては、そのような言い方をしません。

なにかの役職とか肩書きのある男性の妻には、上記のような言葉がつかわれます。

☞ 夫婦は相手の運勢をつかうこともできます。

〔たとえば〕妻がとても良い運勢をもっていたとします。その運勢を夫がつかうことができます。

端的に言えば、夫婦はお互いの運勢をつかうことができるわけです。(夫婦であればです)

それゆえに、大した運勢でもない夫が、妻の運勢によって、成功するということが起こります。

これらは上級へ進むと理解できます。ここでは省きます。

そうしますと、先に書きましたが、安部総理大臣の妻であれば、阿部総理大臣の妻という「社会の場所」

が与えられます。

夫の地位そのものが、女性にとっての社会と考えます。夫婦は相手の運勢をつかうこともできます。

これらの事柄を「生月中殺」をもつ女性に^あて^は嵌めて考えて頂きたいのです。

「生月中殺」をもつ女性は、自分の宿命の「月干」つまり“社会の場”が中殺を受けます。

当然、生月中殺をもつ女性と結婚した男性は、妻の運勢の影響を受けるということです。

それゆえに、生月中殺をもつ女性の夫が異常な状態を起こしてしまうこともあると考えてください。

「月干」は社会の場所で、そこが中殺されているわけです。そこで起こった事象がおなじように家系の場所に入って来た……と考えることもできます。

いずれにしても「生月中殺」をもつ女性の夫にも、不自然な状態がつくられてしまうことになります。

「生月中殺」は（月支）が中殺を受けますが、同時に「年干」も二十八元の〔蔵干〕も中殺を受けます。

そして、（月支）というのは、だれでも〔自分の^{りっち}立地〕であり、その人物の家系の場所でもあるのです。

〔立地〕については、上のクラスで学びます。

☞ 「生月中殺」を人体図に置き換えます。

そうしますと、魅力本能の場所、伝達本能の場所、第2従星の場所の三ヶ所なります。

宿命(5) 生月中殺・人体図

	第四命星 習得本能 年干	第3従星 年支
第一命星 攻撃本能 日支の蔵干	主星 魅力本能 月支の蔵干	第三命星 守備本能 年支の蔵干
第1従星 日支	第二命星 伝達本能 月干	第2従星 月支

宿命(6) 生月中殺・人体図 を見てください。

「生月中殺」は、五本能のなかで、主星の魅力本能が異常になり、第二命星の伝達本能が不自然(異常)になります。十二大従星は第2従星が不自然になります。という風^{ふう}に考えることができます。

第二命星の伝達本能が不自然・不完全ということは、自分が伝えたいと思うことが、うまく伝わらないという状態が起きます。

異常な不自然な魅力と伝達になる

生月中殺の人は、自分が本当に伝えたいと考えていることが、〔間違って相手に伝わってしまう〕……

〔異なる内容で捉とらえられてしまう〕ということが、とても多いのです。

物事が思いどおりにいかないということが、悪いことに繋つながると言い切れませんが、自分の意図しない状態が起ってしまいます。

☞ 魅力本能は、好きになって貰うことですよね。

〔たとえば〕自分が好意をよせている人に好かれずに、好きでもない人に好かれる、というようなことが起こってしまいます。

好きでもない人に親切にして、本当に好きな人には親切にできないわけです。その人を好きなので意識してしまうために、意図しない不自然な状態になってしまうのです。

つまり、本当は好きな人に、親しみをもって接したいのに、好きな人を過度に気にかけてしまい、よそよそしくなってしまうわけです。そして、好きでもない相手には、自然な状態で親切に接することができる状態がつくられます。

このような態度は、自分が好意を寄せている相手側からすれば、ほかの人と異なる対応をされたということから“自分のことを嫌っている”と思わせてしまうことになるでしょう。本当は違うわけです。

参考・意識 [思考する心の働き]

参考・意図 [考えていること。行おうとめざしている目的]

参考・態度 [物事に対して、感じたり考えたりしたことが表情、動作、ことばなどに現れたもの]

『十二大従星』に関する中殺は勉強するときが来ます。

それとおなじような状態は、若い頃に多いといえます。そのため本当に好きな人と、一緒になれないということも起きてしまいます。

この姿は、生月中殺の特徴をかなりの的確に示していると考えています。

生月中殺の人は、無心でさりげなく……意図しない状態でやればよいのです。

あれやこれや張り切らないで、何の気なしにしゃべることが、感銘を与えることもありますよね。

生月中殺の人は、しゃべるときも、意気込んでしゃべると誤解されてしまいます。

自分はこのことを伝えたいと意気込めば、意気込むほど、聞いている側に「この人、何を言っているのかしら……」と思われてしまうのです。

人に何かを伝えるという姿には、さまざまな方法があるわけです。

〔たとえば〕何かをやろうとするとき、あるいは、自分の考え方や物事を伝えるときに、当然、自分の意思の働きがあるはずですが、その思いを強く出せば出すほど、相手が誤解をするということが起こります。そのような誤解は、どこかの場所に中殺をもっている人の共通の課題ともいえるでしょう。

若いときの勢い・意気込みも、年齢を重ねて来ると……^ま^あ間合^あいを見計らって伝達するようになります。

つまり、適当な^{ころあ}い頃合^あをわきまえるようになりますから、あまり意気込まなくなってきました。

これは『生月中殺』の人もおなじと考えています。

参考・意思〔ある行動をとることを決め、かつそれを引き起こし、
持続させる心的機能〕

参考・課題〔解決を求められている問題〕

☞ **一代運** と **初代運** まったく別のものです。

間違いやすいので、ハッキリと区別してください。

一代運 自分一代限りです。

「宿命二中殺」「宿命三中殺」「互換中殺」「日座中殺」

初代運 先祖、あるいは、親の跡を継げないけれど、

自分の代から後はずないでいける可能性をもつ宿命。

「生年中殺」「生月中殺」

* 松下幸之助 1894(M27)-11-27 1989(S23)-4-27 [94 歳没]

	癸	乙	甲			調舒星	天馳星	4 甲子
戊	酉	亥	午	辰	龍高星	石門星	禄存星	14 乙丑
亥		甲		巳	天胡星	鳳閣星	天将星	24 丙寅
			己					34 丁卯
	辛	壬	丁					44 戊辰
		生 月 中 殺						54 己巳
								64 庚午
								74 辛未
								84 壬申
								94 乙酉

☞ パナソニックの創始者・松下幸之助氏の宿命は「生月中殺」でした。

生月中殺は〔養子をもって跡を継がせる〕あるいは〔自分が死んだ後に、跡を継がせる〕なのであればよいわけです。

自分が生きているあいだは「生月中殺」の中殺現象が活きていますから子供が駄目になります。

自分が死んでから、跡を継がせる場合は問題ないのです。

☞ 跡継ぎ、後継者に対して、血のつながりを問いかけていません。

血のつながりの部分もありますけど、家系をつなぐというのは、血縁だけではありません。

あるいは、会社をつなぐというのも、血縁ばかりではないわけです。

* 橋本 龍太郎 1937(s12)7-29 [2006-7-1] 68 歳没

	丁	丁	丁		貫索星	天庫星	8 丙午
子	巳	未	丑	石門星	鳳閣星	鳳閣星	18 乙巳
丑	戊	丁	癸	天将星	貫索星	天南星	28 甲辰
	庚	乙	辛				38 癸卯
	丙	己	己				48 壬寅
			生				58 辛丑
			年				68 庚子
			中				78 己亥
			殺				

橋本さんは：

- ・生まれて間もなく実の母親が死んでいます。
- ・彼の父と義母の間に生まれたのが橋本大二郎（前高知県知事）。
- ・龍太郎本人が〔26歳〕のとき、父が突然死亡。
父親は厚生大臣までやった衆議院議員
- ・父親が死んだ翌年、選挙に初出馬。

この宿命は「生年中殺」です。

彼が生まれて間もなく母親が死亡しています。

本人が〔26歳〕のときに父親が死亡していますから、

とても親縁が薄いといえます。

親が死んだということは、親の場所を中殺した姿ですから、家に居ても構いませんし、親の跡を継いでもいいわけですから。母親が死んだということで、家を継げる状態になったといえます。

そして、より彼の宿命に即^{そく}するのは、父親が死んだということです。その事実によって、『生年中殺』であっても親の職業も継げることになります。

※ 親が死んだことが良いという表現は、あくまでも「生年中殺」という勉強の話です。

総理大臣までいけるのかどうかは別の話として、生年中殺を消化して国会議員になった。その出発点から想定して、総理にまで昇れる可能性はあるといえるわけです。それが運勢ということになります。その部分は生年中殺の宿命どおりです。そして、継母に育てられたのもよかったです。

☞ 継母でよかったという意味は、日干「丁火」によって、丁火を生じる「甲木」が実母になります。しかし彼の宿命に甲木はありません。

そこで、月支（未）の二十八元にある蔵干〔乙木〕を陰陽で母親として取るわけです。

算命学では、この〔乙木〕は“育ての母”という意味になります。育ての母〔乙木〕を偏母^{へんぼ}といいます。つまり、橋本龍太郎を育てた義母が偏母に相当します。

本来は彼の弟が、他界した父親の後継者になる予定であったそうですが、弟が年令に達していなかったこともあって……後継者を龍太郎に決定したのが、義母だといわれています。

* ビル・クリントン 1946-8-19 [第42代アメリカ大統領]

	乙	丙	丙		調舒星	天庫星	7 丁酉	
戊	丑	申	戊	車騎星	玉堂星	鳳閣星	17 戊戌	
亥	癸	戊	辛	天堂星	調舒星	天報星	27 己亥	
	辛	壬	丁				37 庚子	
	己	庚	戊				47 辛丑	
			生 年 中 殺				57 壬寅	
								67 癸卯
								77 甲辰

大統領退任後には、妻のヒラリー・クリントン上院議員の活躍が目立ちました。

クリントン氏の父親は第二次世界大戦で、軍用車両修理の兵役に就いていた。ビルが誕生する3ヶ月前に交通事故で死亡します。

ビルは4歳になるまで、母方の祖父母に育てられました。

クリントン氏の実母（ヴァージニア・デル・キャチディ）は4回結婚していますが、『生年中殺』のビルにとっては好都合でした。何回も再婚するのは異常な状態と考えます。（どなたにもいえます）

結婚・離婚を繰り返すのは、母親が幸せではない姿ですから、母を中殺しているということになります。母が再婚して幸せな場合は、生年中殺をもつビルの運勢にとっては役立たないのです。

母の胎内にいたときに、ビルの父親が死んだという事実があり、それだけでビルの運勢は生きてきます。

☞ ビル・クリントンの宿命には実母がいます。

月支（申）の二十八元の中元〔壬水〕が実母です。

その実母には何人もの男がいると書かれています。

その男のなかには、ビルが生まれる前に交通事故で他界した実の父親、そしてアル中の義父もでているわけです。

母親の男が3人出ているということは、4人いても、5人いてもおかしくないのです。

その母親は、何度も結婚・離婚を繰り返しています。

このことは、ビルにとって辛いことでもあり、運勢的には有り難いことでもあるのです。

たびたび書きましたが、本人の宿命は、親の場所を中殺していますから、生まれてから早めに親元から離すことがよいわけです。

ビルは幼くして、母方の祖母に育てられています。

「生年中殺」をもつビル・クリントンにとっては、親を中殺（異常な状態）に追い込むのが宿命どおりなので、父親が死亡しただけでも、彼の宿命は生きてきます。その犠牲者を基にクリントン大統領という名声と地位をつくったといえます。

宿命中殺のなかで、「生年中殺」をもって生まれた橋本龍太郎とビル・クリントンという2人の政治家は、実の父、実の母に縁がないわけですから、実の両親がいないほうがよいのです。

橋本龍太郎は義母に、ビル・クリントンは祖母に育てられたことは、運勢を上げる意味で極めて助けになったといえるのです。

☞ 子供が「生年中殺」をもっていたら、親が死ぬと子供の宿命が生きてきます。

では……親子にとって、良い状況をつくれるのかといえば、「早く親元を離れる」これが1番に無難です。子供の宿命が生きて来ると、さまざまな分野において、それなりの活躍できる可能性があります。

参考⇒ 宿命中殺をもつ人物を記載しました。 ➡

✽ 加藤 喜美枝 1913(T2)-7-7 [美空ひばりの母親]

午 未	己	戊	癸		祿存星	天庫星	9 辛卯
	丑	午	丑	貫索星	龍高星	貫索星	19 庚寅
	癸		癸	天庫星	石門星	天祿星	29 己丑
	辛	己	辛				39 戊子
	己	丁	己				49 丁亥
		生月中殺					59 丙戌
						69 乙酉	

✽ 美空 ひばり 1937(S12)-5-29

子 丑	丙	乙	丁		石門星	天印星	3 丙午
	辰	巳	丑	鳳閣星	貫索星	調舒星	13 丁未
	乙	戊	癸	天南星	玉堂星	天祿星	23 戊申
	癸	庚	辛				33 己酉
	戊	丙	己				43 庚戌
		生年中殺					53 辛亥
						63 壬子	

＊ マイケル・ジャクソン 1958-8-29

申 酉	戊	庚	戊		貫索星	天庫星	4 辛酉
	寅	申	戌	車騎星	鳳閣星	貫索星	14 壬戌
	戊	戊	辛	天貴星	鳳閣星	天胡星	24 癸亥
	丙	壬	丁				34 甲子
	甲	庚	戊				44 乙丑
	生月中殺						54 丙寅
							64 丁卯

＊ スティーブン・スピルバーグ 1946-12-18

戌 亥	丙	庚	丙		貫索星	天庫星	7 辛丑
	寅	子	戌	貫索星	牽牛星	石門星	17 壬寅
	戊		辛	天貴星	祿存星	天報星	27 癸卯
	丙		丁				37 甲辰
	甲	癸	戊				47 乙巳
							57 丙午
							67 丁未
							77 戊申

✧ 小泉 純一郎 1942(S17)-1-8

子	辛	辛	辛		貫索星	天極星	1 丙午	
	酉	丑		巳	貫索星	鳳閣星	玉堂星	11 丁未
丑		癸	戊		天祿星	貫索星	天印星	21 戊申
		辛		庚				31 己酉
	辛	己	丙				41 庚戌	
			生年中殺				51 辛亥	
							61 壬子	
							71 癸丑	

✧ スティーブン・ホーキング博士もおなじです⇒ 1942-1-8

✧ 安倍 晋三 1954(S29)-9-21

申	庚	癸	甲		祿存星	天恍星	6 甲戌	
	辰	酉		午	龍高星	石門星	玉堂星	16 乙亥
酉	乙		己		天印星	調舒星	天将星	26 丙子
	癸			丁				36 丁丑
	戊	辛					46 戊寅	
			生月中殺				56 己卯	
							66 庚辰	
							76 辛巳	

✽ 石原 裕次郎 1934(S9)-12-28

戊 亥	癸	丙	甲		調舒星	天極星	3 丁丑
	酉	子	戌	龍高星	貫索星	牽牛星	13 戊寅
			辛	天胡星	司祿星	天祿星	23 己卯
			丁				33 庚辰
	辛	癸	戊				43 辛巳
							53 壬午
							63 癸未

生年中殺

✽ 市川 海老蔵 1977(S52)-12-6

辰 巳	丁	辛	丁		貫索星	天將星	10 庚戌
	酉	亥	巳	祿存星	牽牛星	石門星	20 己酉
		甲	戊	天貴星	祿存星	天報星	30 戊申
			庚				40 丁未
	辛	壬	丙				50 丙午
							60 乙巳
							70 甲辰

生年中殺

＊ 古賀 ^{としひこ}稔彦 1967(S42)-11-21 [2021-03-24] 53 歳没

	己	辛	丁		龍高星	天南星	5 庚戌
午	丑	亥	未		貫索星	司祿星	15 己酉
未	癸	甲	丁		天庫星	鳳閣星	25 戊申
	辛		乙				35 丁未
	己	壬	己				45 丙午
							55 乙巳

生年中殺

＊ 古賀 ^{はやと}颯人 1997(H9)-9-13 [稔彦の長男]

	戊	己	丁		玉堂星	天印星	3 戊申
子	午	酉	丑		石門星	調舒星	13 丁未
丑			癸		天將星	石門星	23 丙午
	己		辛				33 乙巳
	丁	辛	己				43 甲辰
							53 癸卯
							63 壬寅

生年中殺

【初年】 58 回目 【天中殺論(4)】 終わります

つぎの授業 ⇒ 【初年】 59 回目 【天中殺論(5)】 です。